

第25回・令和4年度 全視連功労者 功績概要

		氏名	功績概要
1	青森県	坂本 徹 さかもと とおる	平成元年、青森県総合社会教育センター学習情報課指導主事として就任。センターの開設に伴い、センターとしての業務の確立に尽力するとともに、「北の誇り・亀ヶ岡文化」等、郷土学習教材の研究・開発に取り組んだ。また、平成27年より同センター所長となり、映像資料の収集・保管・活用を図るとともに、同センター事業に映像制作ワークショップを組み込むなど、視聴覚教育の発展に貢献した。平成30年より日本人財発掘育成協会にて専任プロデューサーとなり、動画を作成してYouTubeで発信させたり、ショートムービーを制作させたりするなど、高校生の発信力・実践力育成に努めている。
2	埼玉県	澤登 秋夫 さわと あきお	昭和55年から公立小学校で視聴覚主任として授業にOHP等視聴覚機器を活用したり、コンピュータを活用した授業開発を先進的に取り組んだ。また、県学校視聴覚教育連盟事務局長として視聴覚ライブラリーと共催し、一般市民向け「16ミリ映写機操作講習会」や「パソコン講座」の開設に尽力した。平成29年には県視聴覚教育連絡協議会事務局長として、公立視聴覚ライブラリーの研修の充実を図るため企画・運営に尽力した。また、県視聴覚放送研究団体連絡協議会副幹事長として「県教育メディア活用研究大会」では社会教育及び学校教育分野で視聴覚機器を活用した学習を積極的に推進し、その中心的立場で活躍した。
3	新潟県	吉田理江子 よしだ りえこ	平成16年度から同28年度末までの13年間、魚沼視聴覚センターの専門員として、地域映像教材のデジタルアーカイブや動画編集、映像・音響機器のオペレータなど、地域の要請に幅広く応じ、視聴覚教材・機器の活用を推進した。同時に魚沼地域視聴覚教育協議会の事務局として、パソコンソフトや情報機器の操作講習会を企画し、講師を務めた。教材・機器の貸出管理については予約から運送手配までを一元化する専用ソフト「公民館・社会体育施設の貸出管理ソフト」を自作し、大幅に業務の効率化を実現した。平成29年の退職後も、提供したソフトウェアの利用相談や支援をボランティアで続けている。
4	長野県	麻和 正志 あさわ しょうじ	昭和63年、公立中学校の美術教師として奉職。現在まで勤務している各小・中学校にて総合的な学習の時間を活用し、児童たちの問題解決能力の育成のため自主制作映画及び地域のテレビCMを制作して以来、現在も担任学級での映画制作を約20年間継続している。映画制作とともに保護者や地域住民に広く公開する上映会を計画運営し、学校教育のひとつの在り方を示した。平成23年、松本市教育会「映像づくり研究会」を立ち上げ、事務局を担当し現在も継続している。地域での映画上映会や児童と福祉施設との交流事業や、広く一般市民を対象とした上映会等において作品を積極的に活用し、社会教育活動の発展に貢献した。
5	愛知県	坂 章昌 ばん あきまさ	平成2年、県内公立小学校に奉職。新任時より30年間にわたって視聴覚主任を務め、視聴覚教材の開発・授業実践を進めるとともに、他教員への視聴覚機器・視聴覚教材の普及・利用指導を積極的に行ってきた。平成6年度から、知多地方視聴覚ライブラリー協議会主催の実技講習会で16ミリ映写機、ビデオ撮影・編集、PowerPoint教材・プレゼン資料作成等の講師を務めた。平成15年度からは知多地方視聴覚ライブラリーの運営委員として講習会の企画・運営に携わり、教員以外の一般の方も対象として講習会を実施した。平洲記念館増築の際は、展示映像資料の検討・製作・編集等に関わり、効果的な資料展示に貢献した。
6	北九州市	壺岐尾 操 いきお みさお	北九州市A V Eの会は、長きにわたって社会教育・社会福祉発展のために奉仕活動として映写ボランティア活動を継続している。同人は、平成21年6月に北九州市立視聴覚センター主催の16ミリ映写機技術講習を受講終了後、本会に入会し、本会の中心メンバーとして活躍して現在に至っている。そして、地域の母と子の会や年長者の会等で、子どもたちには大いに喜んでもらうこと、年長者には毎日が元気で楽しく過ごせることを願って、月1～2回の映写会を精力的に開催している。14年に及ぶ活動は本市の視聴覚教育の発展に寄与し、社会福祉に貢献するとともに、地域の活性化に役立っている。